鲁岡市成人式

馬路町の20歳の皆さん・ご家族の皆様

おめでとうございます



【中川 瞳】 成人式を迎え、改めて大人になるということを考えました。自分の行動や発言には責任を持って、これから前に進んでいきたいと思っています。また、今まで関わってくれた家族や友達、先生に恩返しが出来るように日々生活を送っていきたいです。

【中川いづみ】 これまで受けた恩を、少しずつでも返せるようになりたいです。

【堤 真珠可】 二十歳になり成人式を迎えました。これまでの 20 年間、自分の好きなことをさせてくれて、誰よりも応援してくれた家族への感謝の気持ちを忘れず、もっともっと両親や家族を大切にできる立派な大人になりたいです。

【侯野有里果】 二十歳を迎えるにあたって変化を 実感する訳でもなく学校行事に追われる日々でしたが、成人の日、久しぶりに会う友達の近況を聞き、 多くの方々に祝福され成人を実感することが出来 ました。私自身に大きな変化があったわけではありませんが、社会における立ち位置や、背負う責任の数が増え少しずつ子供でいられる場所がなくなっていくのだと思うと寂しいという思いと、何か達成感のような嬉しさもあり複雑な気持ちです。

今まで育ててくれた母や祖父母、地域の皆様の 暖かい目に感謝し次の未来の私達に頂いた大切な 恩を繋げていきたいと思います。これからは社会 の一員として貢献できるように努めて参りたいと 思います。

亀岡市消防 出初式

馬路分団出初式が1月12日(日)早朝午前7時から、亀岡川東学園グラウンドにおいて畑仁分団長以下団員31名、中澤自治会長・各区長・各種団体役員等の来賓を迎え実施されました。

畑分団長の下、町民の生命と財産を守り安全安 心な馬路町のまちづくりへの決意を新たにしまし た

9 時からは、亀岡中学校体育館での亀岡市消防団出初式に、分団員・自主防災会が参加。南郷公園までの市中行進では、馬路分団の力強い足音・規律正しく整然とした行進、他の分団を圧倒するひときわ目立った姿を誇らしく感じました。なお、

式典では、長年の消防団員さんの表彰がありました。なお、表彰者は次のとおりです。受賞おめでとうございます。 (堤 邦尋)

亀岡市長表彰 精勤章 畑 仁 (代表受賞者)亀岡市消防団長表彰 浅田一正、浅田義征、八木功弘京都府消防協会長感謝状 名倉 潤 (元分団長)



川東心の教育研修会

令和2年1月18日

今に生きる子どもたちが、国の宝、地域の宝として、しっかりと学び、心豊かでたくましい子どもたちに育つように、地域住民が学校・家庭と連携しながら、ワンチームとして取り組んでいくことがますます重要となってきました。亀岡市では20数年前から全国に先駆けて、子どもたちに様々な実体験を通じて生きる力を持った子どもたちを育んでいく取り組みを、各町自治会を核にして、「心の教育推進協議会」を立ち上げ取り組んできました。

20 数年が経過する中、ワンチームの取り組みであったのが、現在ではPTAのみによる取り組みに後戻りをしている傾向が見られます。

従って、今年度の子育て研修会は、再度、多くの地域住民の参加を求め、地域ぐるみでの子育ての推進を図ろうと取り組みましたが、まだまだ準備不足であったことから、今年もPTAを中心としたものとなりました。次年度からはしっかりと地域ぐるみでの取り組みとなるように努めます。 当日は、文部科学省CSマイスター「ゆめ☆まなびネット地域コーディネーター 大谷裕美子氏から、地域と共にある学校づくり」とのタイトルで、学校の授業に対する住民協力体制の組み立てと実践活動について分かりやすい講演とワークショップをいただき、有意義な研修となりました。

約 80 名の参加者が 12 のグループワークで意見交換



年末特別警戒を実施

12月28日の年末特別警戒に、消防馬路分団(畑仁分団長)・自主防災会(藤井尚副会長)・防犯馬路支部(堤輝明支部長代理)が出動しました。

号令がかかり敬礼をして出動報告をすると、きりっと身が引き締まりました。柏尾危機管理官、中村府議会議員等から激励を受けた後、いまや恒例となった一階和室での「馬路大納言小豆入りのぜんざい」で接待。消防団の皆様は、2 日間にわたり町内を巡回。組織としての若い力は非常に心強いものを感じました。防火・防災・犯罪のない安全安心に暮らせる町にするために、各団体が、いや馬路町民全員が協力し合い取り組んでいかなければならないと思います。

比較的暖冬の中ではありましたが、それでも寒い 中深夜までご苦労様でした。 (藤井 尚)



節分や立春を迎える2月2日(日)に恒例の内溝浚えが 住民総出の下に町内各所で実 施されました。



浚えられた土砂・汚泥等は、次々と横山に運び込まれて係り員の誘導の下に穴場に捨てられていきました。これで春先の準備は整い、小川の流れを待ち望むばかりです。

今年は若い世代の方の参加が多く見受けられ、様変わりしたとの声を聞きました。郷土愛が引き継がれていく一光景、良き風習を維持しつつ、また地域の新しい在り方を模索していける生き甲斐のある馬路町であることを願います。 (川勝昭三)



